

第6次松山市総合計画後期基本計画
グループインタビュー報告書

平成29年10月

松山市

I. グループインタビューの実施概要

1. 調査の目的

第6次松山市総合計画後期基本計画策定にあたって、市民ニーズを直接把握し、その結果を集約・分析した上で、後期基本計画を検討する際の参考とすることを目的とする。

2. 調査の概要

(1) 調査方法

グループインタビュー（座談会形式）

(2) 調査対象

未来の松山市を担っていく若者（高校生・大学（院）生）や、市政に関心を持つ幅広い世代の市民

3. 調査の進め方（質問項目）

日々の暮らし、松山市の魅力（Keep）、松山市の課題（Problem）、魅力向上・課題解決のアイデア（Try）の大きく4つの項目で構成する。導入として、日々の暮らしで、将来都市像「人が集い 笑顔広がる 幸せ実感都市 まつやま」をどのくらい実感できているかを確認し、続いて、市の魅力や課題を整理した上で、効果的な取組のアイデアをまとめた。

図表 I-1 グループインタビュー質問項目の構造

	日々の暮らし	松山市の魅力 (Keep)	松山市の課題 (Problem)	魅力向上・課題解決のアイデア (Try)
内容	第6次総合計画の理念や将来都市像と、市民の日々の暮らしに関連性があるかを確認する。	各人が感じている魅力・課題と、世代ごとの感じ方の違いを調べ、整理する。		魅力・課題を踏まえた上で、効果的な取組のアイデアをまとめる。

4. 開催概要

開催概要は、以下のとおりである。

図表 I-2 開催日時・場所・参加人数・参加者の属性

回	日時	場所	参加人数	参加者の属性
1	8/26(土)10:30～	KH三番町プレイス	8名 (男7名、女1名)	地域活動・社会活動に興味を持つ大学（院）生 ※2回分を並行して実施
2	8/26(土)15:00～		5名 (男3名、女2名)	将来の進路について検討し始めている高校生
3	9/2(土)10:30～	松山センタービル1号館	5名 (男4名、女1名)	市政に関心を持つ一般市民（公募）
4	9/2(土)13:00～		6名 (男4名、女2名)	

II. グループインタビュー結果の概要

(1) 施策につながるポイント

高校生・大学(院)生・一般の主な意見から、施策につながるポイントを抽出・整理した結果は、以下のとおりである(3ページ以降にコメントを記載)。

図表 II-1 施策につながるポイントの抽出・整理結果

	松山市の魅力 Keep	松山市の課題 Problem	魅力向上アイデア Try	その他
高校生	<ul style="list-style-type: none"> ①市内の交通利便性、特に自転車を使っでの移動がしやすい。 ②道路にゴミが少なく、きれい。 ③自然(海、山等)へのアクセスの良さ ④多くの観光資源やおもてなし文化があり、観光地として人気がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ⑤JR 松山駅と駅周辺の整備 ⑥市中心部と他のエリアを結ぶ交通機関の不便さ ⑦観光地・観光施設の充実 ⑧若者が集える場所・子どもが遊べる場所の不足 ⑨交通マナー(路上駐輪等)の向上 	<ul style="list-style-type: none"> ⑩若い世代が松山の魅力を知る機会の提供 ⑪地域行事のPR強化が必要 ⑫地元の人も含め、多くの人が参加できるイベントの実施による地域の活性化 	<ul style="list-style-type: none"> ⑬住み続けたい・将来的には戻りたいと思っている生徒は多数いる(そのための条件として、安定した就職先、やりがいのある仕事が若い人たちに必要)。 ⑭外に出たいと思っている生徒もいる(チャレンジのため出ていく)。

	松山市の魅力 Keep	松山市の課題 Problem	魅力向上アイデア Try	その他
大学(院)生	<ul style="list-style-type: none"> ⑮市内の交通利便性、特に自動車以外の、自転車や路面電車による移動がしやすい。 ⑯街にゴミが少なく、景観も高いレベルで維持されている。 ⑰大都会でも、田舎でもないというバランスの良さ ⑱多くの観光資源やおもてなしの文化があり、観光地として人気がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ⑲JR 松山駅と駅周辺の整備 ⑳市中心部と他のエリアを結ぶ交通機関の不便さ ㉑観光地・観光施設の選択枝の少なさや、質の向上 ㉒若者が集える場所・子どもが遊べる場所の不足 ㉓交通マナー(路上駐車、危険運転等)の向上 	<ul style="list-style-type: none"> ㉔若い世代が松山の魅力を知る機会の提供 ㉕魅力を伝えるための、県外へのアピール強化(一方で、「思ったよりも知られている」という意見もあった。) 	<ul style="list-style-type: none"> ㉖住み続けたい・戻りたいと思っている学生は多数いる(そのための条件として、安定した就職先、やりがいのある仕事が特に若い人たちに必要)。 ㉗外に出たいと思っている学生もいる(松山には魅力を感じているものの、地元に戻って活躍したい)。

	松山市の魅力 Keep	松山市の課題 Problem	魅力向上アイデア Try	その他
一般	<p>⑳松山は災害が少なく、自然が多く、コンパクト。人柄も温和で、大学生など若い人にも便利な、住みやすいまち</p> <p>㉑都市成長力4位になるなど、今後の成長余地のあるまち</p> <p>㉒観光客が多く訪れる観光資源があり、おもてなしもあり、観光地としての魅力が高いまち</p> <p>㉓ことばを前面に押し出すなど、特徴あるイベントやPRを行っているまち</p>	<p>㉔子どもの数が減っている。</p> <p>㉕JR 松山駅と駅周辺の整備</p> <p>㉖まちの魅力のアピールが弱い。</p> <p>㉗公共交通機関の値段が高かったり、本数が少ないため不便な地域もある。</p> <p>㉘郷土愛を若い世代に根付かせないと、若い人が流出してしまう。</p> <p>㉙市場が休みの日は県外から来た人を県内のものでもてなすことができない。</p> <p>㉚交通マナーの改善が必要</p> <p>㉛子どもを連れていけるレジャー施設がない。</p> <p>㉜道後温泉と松山城以外に観光客を連れていける場所が少ない。</p>	<p>㉝地域で分散している祭りを一つにするなど、観光客が集まるようなものがあれば面白い。</p> <p>㉞なるべくお金をかけない方法で市の魅力をアピールし、松山を選んでもらう。</p> <p>㉟地元の交通機関に予算を使ったほうが良い。⇔海外から飛行機で来る客を呼ぶため便を増やすべき。</p> <p>㊱子どものうちに、松山ならではの体験をさせることで、松山の魅力を知ってもらおう。</p> <p>㊲県外から移住してきてもらえるような環境を整備する。</p> <p>㊳地域の避難訓練などの防災活動に幅広い世代の人に興味を持ってもらおう。</p>	<p>㊴もっと花と緑があれば景観がよくなる。</p> <p>㊵総合計画の存在を多くの市民に工夫して知らせるべき。</p> <p>㊶松山の魅力を知った若い人がたくさん松山に残れば、地域が活性化する。</p> <p>㊷どんなまちづくりをしているか一目でわかるものがあれば良い。</p>

① 日ごろのライフスタイル・活動エリア（平日・休日）

1) 高校生

- 平日は学業と部活動をしている。休日は部活、友人と遊びに出かける、勉強をする、地域活動に参加するなど様々である。

2) 大学（院）生

- 平日は学業とアルバイトをしている。休日は部活をしたり、趣味や友人と街に買い物などに出かけたりする人が多い。託児ボランティアなど、地域活動を行っている人もいる。

3) 一般

- 平日は仕事をしている人が多いが、妊娠中や、退職されている人は、それぞれ趣味や地域の活動を行っている。休日は家族と過ごすことが多いが、スポーツや趣味の活動に打ち込む人もいる。

② 松山市の魅力

1) 高校生

- 自転車を利用している人が多く、近距離の移動に苦勞しないコンパクトな街である点が評価されている (①)。
- また、道路にごみが少ない (②)、海や山など自然へのアクセスが良い (③)、様々な文化に触れることができること (④) など、魅力として認識されている。

2) 大学 (院) 生

- 自転車や公共交通機関を利用している人が多く、混雑も少なく、交通の便が良い点が評価されている (⑫)。
- また、道路にごみが少なく街並みも綺麗 (⑬)、都会と田舎のバランスが良い (⑭)、観光地として人気がある (⑮) など、強い魅力として認識されている。

3) 一般

- 「住みやすいまち」がキーワードとして多く挙がり、自然の多さ、コンパクトさや利便さなどがその理由となっている (⑲) 点については学生と共通している。
- 今後の成長の余地が外部から評価されている点 (⑳)、観光地としての魅力の高さ (㉑)、ことばを全面に押し出している特徴あるまちの PR 手法 (㉒) 等について、複数から肯定的な意見が得られた。

③ 松山市の課題

1) 高校生

- JR 松山駅周辺の整備 (⑤) や、一部交通機関の本数が少ないこと (⑥) について意見が得られた。
- 観光スポットになりきれていない (⑦) という意見があった。
- 若者が楽しめる場所がない (⑧) という意見や、路上駐輪が多いといった交通マナーの改善 (⑨) についても取り組むべきという意見もあった。

2) 大学 (院) 生

- JR 松山駅周辺の整備 (⑩) や、郊外の交通の便について改善を求める声 (⑪) が複数得られた。
- 観光地、観光施設の選択肢が松山城や道後温泉に限られてしまうこと (⑫) について意見があった。
- 若者が集う場所が必要 (⑬) という意見や、交通マナー (特に自転車) の改善 (⑭)

についても取り組むべきという意見もあった。

3) 一般

- JR 松山駅周辺の整備 (33) や公共交通 (35)、松山城、道後温泉以外の観光地が少ない点 (40) については学生と同様の課題意識であった。特に交通マナー (38) や公共交通については、料金の高さについての意見が多かった。
- 子ども自体が少なくなっていることへの懸念 (32) がある一方、実際の子育て世代からは子どもを遊びに連れていける場所の少なさについての意見 (39) があった。
- 郷土愛の醸成が若者の定着のためには必要という意見 (36) や、市場が休みの日に県外の人を県内の産品でもてなすことができない (37) ことが課題だという意見もあった。市内の人、外から来る人双方に松山の魅力をアピール (34) する取組が必要とされている。

④ 魅力向上・課題解決のアイデア

1) 高校生

- 松山の魅力を若者が知らない、知る機会が少ないため、そのような機会を設けるべき (10)、地域イベントのPRを強化すべき (11) という意見が得られた。
- 若者が参加できるイベントを開催することで、まちに活気が生まれる (12) 等のアイデアがあった。

2) 大学(院)生

- 学生がまちの人たちと接点を持ち、まちのことを知る機会を増やすべき (24) であるという意見が得られた。
- 県外へのアピールについては、足りないという意見の一方で、意外と知られているという意見の両方があった (25)。

3) 一般

- 祭りを集約して、四国の他の有名な祭りに負けない規模にする (41) という意見や、移住地として松山を選んでもらえるようにアピールする (42)、については複数の参加者からの共通の意見であった。
- 交通の整備については、地元の交通を優先して整えるべきという意見と、消費を増やすために海外からの航空便を増やすべきという意見があった (43)。
- 特に子どものうちに松山ならではの体験をさせることで松山の魅力を知ってもらう (44)、県外から移住できる環境を整える (45) といった移住・定住促進の取組に対するアイデアが出た。
- 防災訓練などを子どもが学校で行う際に、地域の高齢者にも声掛けして訓練すべき (46) というような、高齢者の安全・安心と教育とを意識したアイデアも得られた。

⑤ その他

1) 高校生

- 進学はチャレンジのため、県外に行きたいという生徒と松山に残りたいという生徒は拮抗していた（⑬、⑭）。
- 外に出たいという学生についても、「いずれは松山に戻りたい」という思いがあり、そのためにはやりがいのある仕事があることが重要であるという意見があった。

2) 大学（院）生

- 松山に残りたいという学生も多数いた（⑳）一方で、地元に戻りたい、違う場所に住みたいので外に出たい（㉑）という学生もいた。

3) 一般

- 景観改善についての意見（㉒）があったほか、松山市の総合計画の存在を多くの市民に工夫して知らせるべき（㉓）という意見が得られた。
- 若い人に魅力を伝え、松山に残ってもらえば、地域が活性化するという意見もあった（㉔）。
- どんなまちづくりをしているのか、一目でわかるものがあれば良い（㉕）という意見が得られた。